

## 秦野・小田原そして箱根から

アロンエバークリップミテッド 高橋 伸

2004の春からアロンエバークリップミテッド(AEG)に赴任し、まだ1年半しか経っておりませんが、簡単なAEGの紹介と初めての単身赴任生活について触れて行くことにします。

### 1 AEG紹介

ホットメルト形接着剤(HM)と溶剤形接着剤のメーカーで、主に木工、自動車関連の接着剤を取り扱っています。ホットメルト形接着剤の工場は神奈川県秦野(“はたの”では無く、“はだの”です。)市にあり、溶剤形接着剤の工場は茨城県つくば市にあります。私は、神奈川工場に常駐し、節目に茨城工場に出張する日々を送っています。比較的ホットなニュースとして8月24日の「つくばエクスプレス(TX)」開通があります。陸の孤島(あくまで個人的イメージです)だった茨城工場が秋葉原駅から約60分で行くことが可能になりました。これまでは、上野から常磐線で1時間掛けて牛久駅へ行き、そこからバスで40分の行程でしたが、TXですと最寄りの“みどりの”駅まで47分、そこから歩いて20分程度で行けるようになりました。



写真1 神奈川工場(秦野)から富士山を見る(2005.09.30)

両工場の現況を簡単に紹介しますと、茨城工場に關係する溶剤形接着剤の市場は、改正大気汚染防止法の施行により、脱溶剤への動きがあります。茨城工場製造・技術および営業が一体になって、現市場の維持および脱溶剤技術の開発に努め、この逆風を跳ね返そうとしているところです。神奈川工場の場合は、茨城とは逆です。大気汚染防止法の改正により、脱溶剤の主角としてHMが注目されています。昨年8月3日に竣工した感圧形HM工場はこの市場機会を捉え、自動車内装、ネット分野での新規開発に対応し、新市場開発促進に貢献しています。新市場は製造方法、評価技術、品質管理面において、新たなノウハウが求められます

ので、「お客様のニーズを正確に捉え、速く、精度良く対応」すべく、慎重かつ大胆に開発を進めています。

東亜合成では経験の無かった技術として、比較的新しいIHMスプレー塗工技術があります。被着体の材質、求められる接着性能によっては、ラインスピード数百メートル/分が可能になり、接着剤メーカーとしては、量が稼げる有望市場と言えます。しかし、ハードルは低くなく、塗布時のスプレー性、貼り合わせ時のニップロール圧力・温度へのマッチング等、多くの要求特性を満足させなければなりません、徐々に実績は出てきています。

#### 1-1 改正大気汚染防止法(改正大防法)

生まれて初めて政令・省令作成の場を経験しました。

2004年5月に公布された改正大防法を受けて、揮発性有機化合物(VOC)の排出施設、排出基準等同法に規定する排出抑制制度実施に当たって必要な事項について、中央環境審議会での審議審査に必要な情報を収集、整理して技術検討を行うために環境省環境管理局長の諮問機関として施設類型毎に六つの小委員会が設けられました。その中の接着小委員会のメンバーとして日本接着剤工業会から選出されました。小委員会の会議は、公開会議でプレスも含め一般の方も自由(席に限りはありますが)に議論を聞くことができます。法の目標は2010年を目処として2000年のVOC排出量を3割程度削減することで、その特徴は法による規制と事業者による自主的取組とを適切に組み合わせる手法(ベストミックス)により、効果的にVOCの排出を抑制することです。

接着剤分野で説明しますと、接着剤メーカーは溶剤を原料として使用する側で、そのお客様が溶剤形接着剤を使用する際に、回収設備がない場合、乾燥工程で溶剤を大気に排出することになります。したがって、規制は特定規模のお客様が対象となり、自主規制対象はそれ以外のお客様と溶剤形接着剤メーカーになります。論点は規制対象施設および施設の規模と排出基準です。審議審査の基になるデータの精査、そして裾切り値、猶予期間、中小の経済的支援、規制対象施設に対して妥協を許さない議論を展開する小委員会に参加できたことはいい経験になりました。この後、小委員会での検討内容を基に排出抑制専門委員会がまとめた報告書をパブリック・コメントにかけ、それを受けて本年6月に政令、省令が告示されました。来年4月の規制開始に向けて、日本接着剤工業会のVOC委員として、「VOC排出抑制ガイドライン新バージョン」の作成に携わっています。因みに、日本接着剤工業会メンバーの自主規制目標は、6種類の主要溶剤使用量を2000年に対して2010年までに3割削減することです。

## 1-2 花粉症

固い法律から離れて、AEG神奈川工場の位置に目を移すと、丹沢山系が近くにあります。山が好きな私にとって悪いことではありませんが、今年は様子が違いました。昨年赴任時のスギ花粉は大したことはなかったのですが、今年の花粉は全国的に前年より10倍から30倍と非常に多かった以上に、場所的な要因が効果的に働き、ひどい目に遭いました。スギ花粉を多量に含む薄黄色の風が丹沢の空を覆う日は特に注意が必要です。

花粉症の方で、花粉のひどい時期に神奈川工場に立ち寄られる際は、花粉用保護具着用が必要です。指差呼称を忘れずに!

## 2 小田原・単身散歩

私のアパートは小田原にあります。小田原で、まず紹介するスポットといえば、小田原城と思います。もともとは相模国の豪族土肥氏一族の館で、室町時代に大森氏が奪った後、1495年、伊豆を支配する北条早雲が大森氏から奪い、その後北条氏の5代95年にわたる居城であり、南関東の政治的中心でもありました。



写真2 小田原城(2004.03.29)



写真3 小田原提灯夏まつり(2004.07.24)

桜の頃の小田原城(4月)、菖蒲に囲まれた小田原城(6月)は美しく、花々との調和がとれる城と言えます。また、小田原ちようちん

夏まつり(7月)は、チーム毎に趣向を凝らした「ちようちん踊り」を披露し、活気にあふれています。暑い夏のビールを美味しくさせてくれます。

小田原駅東口を出て南に進むと、自転車だと約10分程度(アウト)で相模湾を臨む海岸に出ます。早朝に行くと格好だけはプロの釣り師達が、大物を狙って投げ釣りをしていますが、大物が釣れたところをまだ見たことはありません。寧ろ、釣りより先交流を楽しんでいるようです。しかし、魚は豊富な様で、海鳥の餌にと、波打ち際で投網をする人がいましたが、一投で数匹の30cmサイズの魚を捕っていました。海風は気持ち良く、時が経つのを忘れさせてくれます。ここは砂浜でなく、波に削られた丸い石が特徴の砂利の海岸ですので、海水浴には向きません。休日はだらだらと過ごす恐れがありますので(単身赴任の特権?)、天気が良ければ、掃除、洗濯の後で、なるべくサイクリングに出る様にしています。

小田原から電車とバスのアクセスが良ければ、1時間と20分程度で、芦ノ湖です。小田原は箱根旅行の拠点として絶好の位置にあります。湯本、強羅、宮城野、仙石原、大涌谷どこも気楽に行ることができます。しかし、一人は少し寂しい。

## 3 箱根外輪山と旧箱根街道・単身ハイキング

雄大な富士山を眺めるには、外輪山登頂が良い。それを楽しみに何度か登りはしましたが、通勤途中で目に飛び込んでくる富士山を上回る風景を見たことは、残念ながらありません。しかし、芦ノ湖を囲む山々は美しく、爽快な気分させてくれます。

暇な休日の早朝、アパートの窓から山を見て怪しい雲が無く、雷の音もなく、天気予報で崩れる心配が無いことを条件にハイキングに行きます。ここでは、富士山を見ることができた明神ヶ岳、金時山、そして少しハードですが散歩気分でダイエットを楽しめる箱根旧街道を紹介して行きます。

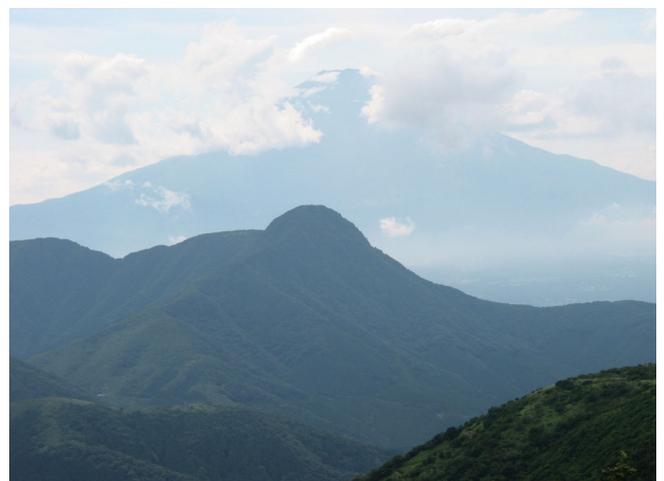


写真4 明神ヶ岳から富士山を見る(2004.07.18)

明神ヶ岳のハイキング(宮城野～明神ヶ岳)は、2週間前に登った浅間山(あさげんやま)が軽快だったため、軽い気持ちでチャレンジしましたが、間違いでした。日光を遮る場所も少なく、風もなく、き

つい登り道が延々と続く行程でした。2004の夏で、熱中症が話題になっていた頃ですが、水分補給用に用意したペットボトルの中身がお茶だった為、多量の汗に含まれる塩分を補うことができず、辛いハイキングになりました。これ以降の登山はスポーツドリンクを携帯することにしています。登り道の途中で何人かのバテ中高年者を目にし、仲間意識から少し安心しました。しかし、宮城野が眼下に見下ろせる高さになると、美しい景色を見渡すことができ、疲れを紛らわすことができます。この日の富士山は雲がかかっていましたが、輪郭は確認することができました。天気がよければ最高のパノラマだそうです。興味のある方は、別の登山口(金時、足柄等)から登り、明神ヶ岳を下るコースを選択した方が良いと思います。また、帰りは宮ノ下でバスから箱根登山鉄道に乗り換えるのがお勧めです。宮ノ下から先は交通渋滞が待っています。

次は、金太郎伝説の地であり、富士山眺望の人気コースが金時山(仙石原～金時山～乙女口)です。岩場が多く、ロープを使う場所もありますが、トレッキングシューズを履き、軍手を準備し、山頂でビールを飲まなければ、特に問題の無いコースです。登山靴の女性、デッキシューズの男性の熟年カップルがいましたが、男性がデッキシューズのため岩場で動けなくなり、女性に冷ややかな目で見られていました。ガイドブックに書かれている最低の装備は準備すべきです。また、登り道途中でここはどこですかと尋ねている方がいました。地図と地名での位置説明に対して、赴任したばかりだから判らないと困惑していました。事前の計画と地図持参ぐらひはすべきです。金時山は、明神ヶ岳ほどのきつさはありませんが、結構疲れます。山頂に近づくにつれ、周りのハイカーと共に、「もう少しで山頂だ!頑張りよう。」という暗黙の共通目的をもって登っていた時、世間話に夢中になっている奥様方一行に出会い、意識のギャップを感じさせられました。このハイキングコースは景色も良く、いろんな方に出会うことができ、お勧めです。山頂には有名な金時茶屋があり、“生ビール”を飲むことができますが、私は我慢して“かき氷”にしています。2回登りましたが、今年中に別のコース(足柄～金時山～仙石原)でもう一度楽しみたいと思います。

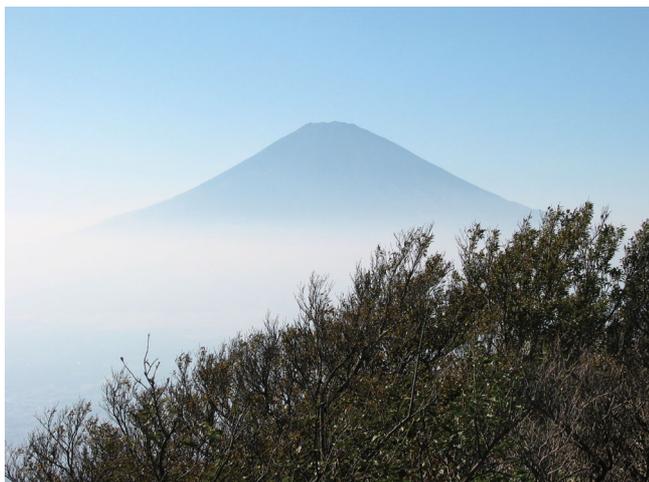


写真5 金時山から富士山を見る(2004.10.17)

最後は、険しすぎないが、ほどほどの達成感が味わえる箱根旧街道(畑宿～元箱根)ハイキングです。私の好みは下りの多い元箱根スタートです。

昨年は普通に楽しみましたが、今年は台風の後だった為、杉並木は進入禁止、数カ所で小さな土砂崩れ、倒木があり、別人の様な旧街道を見ることができました。泥で濡れた石畳は滑りやすく、散歩気分の予定が、真剣モードに変わりました。マウンテンステッキの有難味を箱根旧街道で覚えるとは思っていませんでした。旧街道の中間地点にある甘酒茶屋の甘酒と力餅は美味で、途中休憩には最適です。ここからは道も良く散歩気分に戻ることができました。目的地の畑宿からは湯本駅行きのバスに乗って帰るのですが、このバス停横の“あんの茶屋”は有名です。おはぎもお茶も美味しいのですが、名物おじさんのトークは噂通りでした。昨年店に入った時のことですが、既にお客さんとのトークが始まっていました。元箱根を起点にした私にも毒舌を振るいましたが、楽しい一時を過ごせました。おじさん曰く、箱根旧街道には別名があり、畑宿スタートの登りコースは元気な“おぼんコース”、元箱根スタートの下りコースは元気のない“おじんコース”と呼ばれているとのことです。「本当かな?」しかし、帰りの交通渋滞を考えると“おじんコース”がおすすめです。



写真6 箱根旧街道(2005.08.27)

単身赴任生活がメインの文になりましたが、AEGを知るには、来られるのが一番と思います。機会がございましたらぜひお立ち寄りください。お待ちしております。